

社会福祉法人 まほろば 令和2年度 事業計画



指定介護老人福祉施設

特別養護老人ホーム まほろばの里たいわ

ユニット型指定介護老人福祉施設

特別養護老人ホーム まほろばの里たいわ

指定短期入所生活介護

ショートステイ まほろばの里たいわ

指定通所介護

デイサービスセンターまほろばの里たいわ

指定居宅介護支援事業所

まほろばの里たいわ居宅介護支援事業所

地域型保育事業（事業所内保育事業）

たいわっこ保育園

指定介護老人福祉施設

特別養護老人ホーム まほろばの里向山

指定短期入所生活介護

特別養護老人ホーム まほろばの里向山

令和2年度事業計画（案） 目次

法人理念・運営理念・令和2年度運営方針	1
特別養護老人ホームまほろばの里たいわ事業計画	4
ショートステイまほろばの里たいわ事業計画	7
デイサービスセンターまほろばの里たいわ事業計画	8
まほろばの里たいわ居宅介護支援事業所事業計画	10
たいわっこ保育園事業計画	11
【各委員会及び係 年間計画】	
より良い暮らし委員会・身体拘束・虐待防止委員会・事故防止対策委員会	12
苦情解決委員会・防災対策委員会・感染（褥瘡）予防対策委員会	13
研修委員会	14
食事栄養委員会	15
地域介護育成チーム	16
喀痰吸引等業務検討委員会	17
特別養護老人ホームまほろばの里向山事業計画	18
【各委員会及び係 年間計画】	
ユニットリーダー会議・事故防止対策委員会	19
苦情解決委員会・防災対策委員会	20
感染予防対策委員会・給食委員会	21
もっと生活向上委員会・デジタルクリエイション委員会	22
褥瘡対策委員会	23

○ 法人理念と行動指針

社会福祉法人まほろばは、利用者・地域そして職員に喜ばれる運営を行い、社会に貢献できる法人を目指していきます。このことを具現化するために、以下に掲げる理念と行動指針を共有します。

1. 法人の基本理念

人間尊重の理念のもと、利用者の満足を第一とします。

2. 理念を具現化するための行動指針

「風通しが良いか」「コミュニケーションがとれているか」「同じベクトルを向いているか」を常にチェックして、何事においても「報告・連絡・相談」を徹底して取り組みます。

3. 職場の努力目標

- ・ 迅速に報告ができる職場づくり
- ・ 緊密に連絡を取り合う体制づくり
- ・ なんでも相談できる環境づくり

○ 令和2年度運営方針

～ いつでも誰でも集える暮らせる 小さな街を目指して ～

下記7項目に重点を置き、令和2年度の法人運営を行います。

1. 【サービスの質の向上】

- ① 専門職集団としての質の向上
- ② 根拠・目的を明確にした質の高いサービスの提供
- ③ 自己研鑽ができる環境づくり
- ④ 日々のサービスの振り返り、自己点検体制の構築
- ⑤ 報告・連絡・相談の徹底

2. 【家族との信頼関係の強化】

- ① 家族とのコミュニケーションの充実
- ② 家族との情報交換
- ③ 家族も一緒に参加できる行事の企画・実施
- ④ 家族も過ごしやすい生活環境づくり

3. 【働きやすい職場環境づくり】

- ① いつでも誰でも相談できる環境作り
- ② 各職種間の連携強化
- ③ 職員が楽しく働ける環境作り（福利厚生の実施 親睦会の活用等）
- ④ 施設間の職員交流
- ⑤ キャリアアップの仕組みづくり（働きがいのある職場づくり）

4. 【人材創出・育成】

- ① 人材育成（内部研修 外部研修への積極的参加）
- ② 人材創出（実習の受け入れ、地域住民の働く場所として）
- ③ 資格取得講座の実施（介護職員初任者研修・実務者研修）
- ④ 仙台保健福祉専門学校との連携（実習の受け入れ）
- ⑤ 施設内事例発表会の実施
- ⑥ 施設間の職員研修（たいわ、向山での体験実習、合同職員研修等）

5. 【地域連携】

- ① 地域に向けた介護サービスに関する情報提供（研修会等の実施）
- ② 他事業所との連携
- ③ 小中学校の職場体験受け入れ
- ④ ボランティア育成及び受け入れ
- ⑤ 地域イベントへの積極的参加（地域の夏祭等への参加）
- ⑥ 行政機関や地域の社会福祉協議会等との連携強化
- ⑦ 専門学校や地元中学・高等学校等との連携

6. 【安全対策】

- ① 防災対策の強化（備蓄食糧の整備 避難訓練の実施）
- ② 事故対策の強化（事故対策委員会を中心とした介護事故防止対策の強化）
- ③ 感染対策の強化（感染予防対策委員会を中心とし、感染対策の徹底）
- ④ 苦情解決体制の強化（苦情解決委員会を中心とした、苦情解決体制強化及びサービス向上）
- ⑤ 法令順守の徹底（規程・規則、マニュアル、研修制度の見直し、提供するサービスの見直し）

7. 【安定した施設運営】

- ① 特別養護老人ホーム（まほろばの里たいわ）稼働率98%以上の確保
- ② 短期入所生活介護（まほろばの里たいわ）稼働率85%以上の確保
- ③ 通所介護（まほろばの里たいわ）稼働率70%以上の確保
- ④ 居宅介護支援事業所実績数30件以上の確保
- ⑤ たいわっこ保育園利用率 95%以上の確保
- ⑥ 特別養護老人ホーム（まほろばの里向山）稼働率98%以上の確保
- ⑦ 短期入所生活介護（まほろばの里向山）稼働率85%以上の確保

特別養護老人ホーム まほろばの里たいわ 令和2年度事業計画

【令和2年度目標】

① 入居稼働率98%以上の確保

ユニット型個室稼働率99%、多床室98%の稼働率を目指します。
上記達成のために、空床から新規入居までの期間を短縮するよう努めます。
そのためにも、常日頃の関係事業所との連絡調整を行い、スムーズなベッドコントロールを行います。
また、近隣地域の居宅介護支援事業所、介護老人保健施設、医療機関等の関係事業所や行政機関との連絡調整を行い、待機者数の確保に努めていきます。

② 入居者の生活の質向上に向けた取り組み

～ 入居者一人一人の生活に目を向け、その方々が望む生活を送ることが
できるようなケアを提供します ～

- i ユニットケアの推進（入居者が望む生活を送るためのケアの提供）
- ii イベント・外出・施設外の活動・保育園児との交流等入居者が楽しめる生活づくり
- iii 町内会活動（ユニット間の連携）の強化
- iv 24時間シーートの活用
- v その人らしい日常生活を送るために必要なリハビリ活動の提供や機能評価
- vi 健康状態に合わせた適切な食事提供と口から食べる楽しみを維持するための栄養ケアの実施

入居者の「生活」に目を向け、食事・排泄・入浴・生活環境を一人一人の生活パターンに合わせたケアの提供を行います。

職員の経験年数、能力に合わせた研修体制の強化、外部研修や資格取得支援を行うことで、ケアの質を向上させ、入居者にとって「居心地の良い空間づくり」を提供できるサービスを実施します。

また、多職種連携に力を入れ、様々な専門職の知識、技能を生かしたケアサービスの提供に努めていきます。

③ 家族との信頼関係の強化

昨年度に引続き、入居者ご家族とのコミュニケーションを重要視し、入居者はもちろんのこと、ご家族にとっても「居心地の良い空間」づくりに努めていきます。ご家族とのコミュニケーションを図ることで、風通しの良い雰囲気づくり、信頼関係の構築に繋げ、より良いサービスの提供に努めていきます。

④ 情報共有の徹底

サービスの質を確保するため、ユニット職員間、介護、リハビリ、ケアマネ、相談員、看護師、事務職との情報共有を徹底していきます。

各職種の役割、業務内容の明確化を行い、入居者・家族・地域の方々からの要望、希望等の要件に的確かつスピーディーに担当者へ繋ぐことができ、入居者・ご家族・地域から信頼される施設づくりを目指します。

⑤ 職員一人ひとりのサービスの質の向上

サービスの質の向上のため、「介護プロフェッショナルキャリア段位制度」を導入し、経験年数や職責に応じて求められる役割を「見える化」することにより、職員一人ひとりの課題を明確にします。職員の課題に応じた研修の実施やOJTによる指導を行い、一人ひとりのサービスの質の向上に努めていきます。

【各ユニットの目標】

- | | |
|-----------|--|
| あんずユニット | <ul style="list-style-type: none">入居者の状態に合わせたイベントを企画し、個人の楽しみを実現できるよう追及していく |
| かりんユニット | <ul style="list-style-type: none">情報の共有を図る入居者がそれぞれに望んでいる暮らしをサポートする |
| すももユニット | <ul style="list-style-type: none">日々の変化に合わせた対応ができるよう、1日の業務や入居者の過ごし方を考える |
| すぐりユニット | <ul style="list-style-type: none">気遣い・心づかいができる入居者、職員と一緒に楽しめる行事を企画、実施する |
| くるみユニット | <ul style="list-style-type: none">自分らしく意欲を持って生活を送れるように支援する |
| なつめユニット | <ul style="list-style-type: none">ユニットケアの実施（5つの欲求を満たし、その人らしい暮らしを提供）チームケアの徹底入居者の健康と安全、清潔な生活空間の提供、丁寧なケアの実践 |
| すみれユニット | <ul style="list-style-type: none">ユニット職員一人ひとりが思いやりの気持ちを持ち、働きやすい環境を作る個別ケアを大切に、担当職員が中心となって生活社会やすい環境をつくる。そのためにも、日々のご家族との関りを深く持ち、親密な関係づくり、情報交換を行っていく |
| りんどうユニット | <p>「入居者の気持ちになって安心して楽しく過ごせるユニットをつくる」</p> <ul style="list-style-type: none">笑顔溢れる雰囲気づくりや、その人らしい充実した生活を送ることができるよう、職員一人一人が責任を持ち、入居者の気持ちに寄り添うケアを行う |
| すずらんユニット | <p>「個人のできることを増やしていく」
入居者の生活の中でできる（やりたい）活動を増やし、支援していく
職員は様々な事に挑戦、取り組みスキルアップを図る</p> |
| かたくりユニット | <ul style="list-style-type: none">ケアへの自覚と責任を持つケアの統一職員同士の活発な意見交換 |
| リハビリ・栄養部門 | <ol style="list-style-type: none">① 部門内の連携② 他職種への情報発信③ 入居者に貢献できる知識や技術の習得 |
| 【リハビリ部門】 | <ul style="list-style-type: none">多職種協力のもと入居者のニーズに沿ったクラブ活動やユニット活動を推進し、集団リハビリの充実化を図る個別リハビリを強化し、心身の維持を図る入居者へ適切なケアのために、介護職の要望やニーズを汲み取り、反映しやすい介助方法の提案や福祉用具の導入、推進を行っていく |

【栄養部門】

- ・ 口から食べる楽しみを長く保てるよう栄養管理を行い、食事環境や身体機能を多職種協働で支援する
- ・ 保育士と連携し、アレルギー食や離乳食の提供など子供一人ひとりの心身の状態に応じた食事、栄養管理を行い、園児や保護者へ食や栄養についての情報発信を行う
- ・ 給食委託業者と連携し、入居屋の意見や要望を献立や調理に反映させる

ショートステイ まほろばの里たいわ 令和2年度事業計画

【令和2年度目標】

① 入居稼働率平均85%以上を確保する。

- ・ 居宅介護支援事業所との情報交換を綿密に行い、ショートステイの空床情報等を居宅介護支援事業所ケアマネに公開して行きます。
- ・ 生活環境を見直しし、利用者に「また利用したい」と感じてもらえるようなサービスの提供に努めます。
- ・ 作業療法士等による小集団体操や個別機能訓練を実施し、日常生活に必要な身体能力の維持・向上を目指し、在宅での生活の継続に繋げていきます。
- ・ 迅速・適切な対応を行い、御家族やケアマネからより厚い信頼を寄せて頂けるように努めます。

② 長期入所の申し込みに合わせて、短期入所のニーズを把握しながらサービス利用に繋げていく。

長期入所待機者の受け皿としての機能を高めるため、退院後の生活の場としてのニーズを掘り下げていきます。具体的には、居宅介護支援事業所ケアマネや御家族へ、在宅復帰が難しくなることが予想される場合には、早めにショートステイの予約をすることで、退院後の生活の場を確保しやすくなることの情報提供や提案を行い、利用者確保に努めていきます。

また、長期入所の入居相談時には、ご本人の状態を把握したうえで、ショートステイやデイサービス等の在宅サービスの提案も行い、稼働率向上に繋げていきます。

③ 「おもてなし」 目配り・気配り・心配り

1 気持ちよく迎える

- ・ 居室はもちろん、リビング、トイレの清掃を徹底し、常に清潔な環境を提供します
- ・ 挨拶をしっかりと、元気に丁寧にお迎えします
- ・ 「どうしたらその方に喜んでいただけるか、満足感を感じて頂けるか」と常にサービスの質を振り返り、向上させていきます

2 気持ちよく帰っていただく

- ・ 「どうもありがとう」が聞ける、「また来たい」と感じてもらえるよう、記憶に残るサービスを提供します
- ・ お預かりした荷物は責任を持ってお返しし、安心と信頼を提供します

④ デイサービスとの連携強化

- ・ 毎月1回デイサービスとの合同ミーティングを実施する。

デイサービスセンター まほろばの里たいわ 令和2年度事業計画

□ 令和2年度稼働目標70%以上を目指します。

□ 利用者確保に向けた取り組み

① 活動内容の選択・参加型レクリエーションシステムの実施

- ・ 日替わり、週替わりでレクリエーションを提供し、様々は活動へ参加して頂けるように職員間の連携を図り、継続性を意識して取り組む。また、職員一人ひとりのスキルの向上のため、取り組みの振り返りを定期的に行っていく。

② デイサービスセンターまほろばの里たいわの特徴を強化する

- ・ デイサービスセンターまほろばの里たいわの特徴づけを明確にし、利用者の選択肢の拡大、通所リハビリ終了者の取り込みを行う。

③ 各居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携強化

- ・ 各居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携を通して利用者確保に繋げる。

□ 基礎介護の向上

① 個人の振り返りの実施

個人目標の進捗状況を毎月の会議で確認し、全員の目標達成に向け自らの達成状況を振り返ることで、自分が今後どのように行動すればよいのかを振り返る機会とする。また、全職員が他の職員の目標を把握することで、他職員の目標達成に向けて協力し合える環境を作る。

② 介護技術の再確認・向上を目指す

- ・ 定期的に職員の介護技術の状況を確認していく。
- ・ 各部署と連携し、施設内研修を実施する。
- ・ 送迎事故（転倒事故等を含む）0件を目指します。

③ 基本業務の徹底

- ・ 通常業務スケジュールの確認（排泄ケア・口腔ケアの徹底）
- ・ 役割分担の明確化（業務改善、レイアウト、送迎表、物品、各行事等）
- ・ 外出、買い物などの定番化（要支援の方を中心に生活に密着した自立支援）

④ 気づき・家族連絡の徹底

- ・ 職員間での気づきスキルにはまだ個人差があり、その差が事故につながる可能性もある。その気づきの差を埋めるため、気づいた情報を記録として残し共有していく。また、家族との連絡を密にしていき、利用者の生活全般を支援していく。

□ ショートステイとの連携強化

① 毎月1回ショートステイとの合同ミーティングを実施する。

□ 人間力の向上

① 挨拶、コミュニケーション等、接遇の強化

- ・ ビジネスマナーや一般常識、あいさつの仕方等、一般社会、一般企業において必要と思われる項目に関する研修の実施。

② 考え方・意識の向上

- ・ 「無理・出来ない・ダメ」等のネガティブな意識を撤廃し、「実行するために、達成するためには〇〇が必要」とあくまでも実行、達成を目指す考え方の浸透を図る。
- ・ 半年後、1年後を見据えた物事の考え方、企画力を身につける。

□ 社会資源の活用

地域ボランティアの活用

- ・ 現在、地域の民生委員による月1回（第1金曜日）の訪問あり。今後は、社会福祉協議会との連携を図り、新たなボランティアグループの発掘及び「デイサービスセンターまほろばの里たいわ」としてのボランティアグループの構築を行う。

□ 個別機能訓練

- ・ まほろばの里たいわのデイサービスを利用することで元気になり、利用者が目的をもって通え、安心して在宅生活が続けられるデイサービスを作りを行う。そのために、リハビリ職員を中心としたリハビリの実施、他事業所、居宅介護支援事業所等と連携を図っていく。

□ 年間行事

4月	お花見外出レク
6月	運動会
7月	夏祭り
9月	敬老会
10月	紅葉外出レク 保育園とのハロウィン
12月	クリスマス会
1月	新年会
2月	節分 豆まき

□ デイサービス定例行事

- ・ お楽しみ風呂
- ・ 近隣への買い物

まほろばの里たいわ 居宅介護支援事業所 令和2年度事業計画

1 基本方針

要介護者が居宅において日常生活を営むために必要な保健医療サービス、福祉サービスの適切な利用ができるよう、また利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、利用者の選択に基づき適切な保健医療サービス、福祉サービスが総合的かつ効果的に提供されるよう、多様な事業者と調整しながら在宅での自立した生活が継続できるよう支援していく。

(1) 信頼を得る

利用者及びその家族とのコミュニケーションを重視し、信頼関係の構築に努める。

医療、福祉サービス事業者との情報共有を密に行い、信頼関係、事業者間の連携の強化に努める。利用者家族や地域住民との交流の機会を作り、コミュニケーションを図ることで信頼関係の構築に努める。

(2) 課題を正確に捉える

アセスメントを正確に行い、利用者及びその家族の抱える課題や問題と向き合う。

(3) 情報提供

介護保険制度や、保健医療サービス、福祉サービスの情報を適切に提供する。

(4) モニタリング

毎月計画的に利用者宅を訪問し、利用者の身体状況、生活環境を把握する。また、利用したサービスの評価と利用状況を確認する。

2 実践目標

○ 利用者確保

- ・ 関係福祉行政機関、地域包括支援センターとの連携強化に努め、事業実績30名以上確保を目標とする。

○ 利用者宅訪問

- ・ 毎月計画的に利用者宅へ訪問し、ケアプラン、利用票の説明及びモニタリングを行う。

○ 保健医療サービス、福祉サービス提供事業者との連携 給付管理

- ・ サービス提供票の作成、配布、サービス内容の調整及び利用者の情報共有を行い、必要に応じてケアプランの見直しを行う。
- ・ サービス提供事業者からサービスの実績報告を受け、内容を確認し給付管理票の作成、国民健康保険団体連合会へ翌月10日までに提出する。

○ 介護支援専門員の資質・専門性の向上

- ・ 専門的な知識・技術を高めるために積極的に研修に参加していく
- ・ 地域包括支援センターと連携し、アドバイスを受けながら困難事例の検討、対応を行っていく。
- ・ 特別養護老人ホームまほろばの里たいわと連携し、研修会を企画、実施し自らの資質向上だけではなく、地域全体の介護力向上に努めていく。

たいわっこ保育園 令和2年度事業計画

【令和2年度保育目標】

子どもの発達についての的確に把握し、発達過程に応じた愛情ある保育をする

- ・ 子どもの一人ひとりの個性を大切にする
- ・ 健康な心と体を育てる
- ・ 安全で安心できる環境をつくる
- ・ 一人ひとりの子供の心身の状態に応じた栄養管理を行う
- ・ いろいろな遊びを通して、簡単なルールを身につける
- ・ 高齢者や地域の人々との触れ合いから、思いやりの気持ちを育てる
- ・ 保護者、家族と密接に連携を図る

- ☆ 心身ともに丈夫なこども
- ☆ ひとの気持ちを大切にできるこども
- ☆ みんなと仲良く遊べるこども
- ☆ 意欲を持つこども

上記を目標に保育計画を立案、実施していきます。また、特別養護老人ホームとも連携し、行事や日常生活内での活動を通じて世代間交流を図っていきます。

【たいわっこ保育園年間行事計画】

	行 事
4月	はじめの式（入園・進級式）
5月	サツマイモの苗植え 保育参観
6月	虫歯予防活動
7月	夏祭り 七夕会
9月	敬老会
10月	芋掘り ハロウィン
11月	クッキング
12月	クリスマス会
1月	新年会
2月	豆まき会
3月	修了式・お別れ会

※ 7・8月水遊び

※ 毎月（誕生会・身体測定・避難訓練）

※ 年2回 内科検診 年2回 歯科健診

※ みやの森幼稚園との交流会（年2回）

■ 各委員会及び係 年間計画

□ より良い暮らし委員会

【目標】

「ユニットケア」「IT（記録・広報）」「口腔ケア 排泄ケア」の3つの分野から、入居者一人ひとりの生活の質と生活を共にする職員が働きやすい環境を作っていくことを目標に令和2年度の委員会活動を行っていきます。

より良い暮らしを作るため3つの分野で年間の目標と計画を立て検討し合い、各担当からそれぞれのアプローチを図ることで、暮らしの充実化を目指します。

【活動内容】

- ① 24時間シート活用に向けた書式の改訂、内容の充実、マニュアルの作成、研修会の実施
- ② 記録方法の統一、研修会の実施
- ③ 布パンツの推進 オムツコストの削減、排泄介助の研修会

□ 身体拘束・虐待防止委員会

【目標】

身体拘束・虐待防止に向けた施設内研修を実施し、「対応チェックリスト」についての考え方を定着させます。委員会の中で「グレーゾーン」「対応チェックリスト」を基にした話し合いを活発化させ、職員一人ひとりの意識向上に繋げていきます。

【活動内容】

- ① グレーゾーンについて、会議を通し毎月各部署から意見を集め話し合いを行っていく。
- ② 年2回 対応チェックリストの実施
- ③ 年2回 身体拘束・虐待防止研修会の実施

□ 事故防止対策委員会

【年間目標】

- ① 事故・気づき一覧表の活用を進めていく
- ② 事故の予防、対策に係る必要なスキルの向上に努める
- ③ 毎月テーマを設け、効率の良い会議を行っていく

□ 苦情解決委員会

○ 苦情を未然に防ぐ

ユニットや各部署で苦情に発展しそうなケースについて情報共有、今後の対応についての検討を行い、苦情を未然に防ぐよう努めていく。

○ 第三者委員との連携

第三者委員との連携を強化し、第三者委員による苦情解決に関する研修会等を企画し苦情の予防、解決に関する知識を高めていく。

□ 防災対策委員会

【令和2年度年間計画】

	実施事項
4月	普通救急救命講習
5月	防災設備点検
6月	防災訓練(法定避難訓練)
7月	コンセント(漏電)点検
8月	水害避難訓練
9月	通報訓練
10月	防災訓練(自主避難訓練)
11月	コンセント(漏電)点検
12月	不審者対応訓練
1月	災害備蓄品の点検
2月	防災訓練(昼間想定・法定訓練)
3月	防災計画・マニュアルの見直し

□ 感染予防対・褥瘡予防策委員会

【令和2年度目標】

- 1 感染症の発症をゼロに近づける。また、その被害を最小限にするため早急に感染対応をとっていく
- 2 職員一人ひとりの感染症の知識を深め対応ができる
- 3 褥瘡の知識を深め、褥瘡を作らないケアをしていく

【行動計画】

- 1 平常時の感染対応を徹底して行う
- 2 感染対応のレベル表の周知徹底を行い、レベル表に基づき行動する
- 3 感染症の怖さを職員一人ひとりが理解し、具体的行動をとれるようにする
- 4 年2回の研修会を実施し、すべての職員が参加し、理解できるようにする
- 5 褥瘡を作らないよう、チームで統一した介護を行っていく
- 6 褥瘡発症時は、初期段階で改善・治癒できるよう対応を行っていく

□ 研修委員会

平成31年度に引き続き、施設内部研修を企画・実施し職員の知識・技術の向上に努めていきます。

【令和2年度年間計画】

	実施事項
4月	記録研修 接遇（コミュニケーション）研修
5月	感染予防対策研修① ターミナルケア研修
6月	介護保険関係（コンプライアンス） ユニットケア研修
7月	事故対策研修① リハビリ研修（移乗・移動）
8月	口腔ケア研修
9月	MTS 医療面の基礎知識研修
10月	感染予防対策研修② 事例発表
11月	褥瘡予防対策 苦情研修（接遇）
12月	身体拘束・プライバシー研修 リハビリ研修（摂食嚥下）
1月	排泄研修 伝達講習
2月	事故対策研修② 伝達講習
3月	認知症研修 伝達講習

上記研修の他に、新人職員同士のコミュニケーションや仕事に慣れることを目的としたプリセプターミーティングを定期的実施します。

□ 食事栄養委員会

【委員会目標】

- I 五感を刺激し、生きる喜びに繋がる食環境及び食の提供
- II 食を通して季節を感じることができる
- III 食品衛生の意識を高め、安全でおいしい食の提供

【行動目標】

- ① 香りや温かさ等を伝え、食欲増進に繋がる提供を行う
- ② 利用者と職員と一緒に料理を考え、作り、食べる楽しみを感じられる工夫をする
- ③ 季節の食材や地域で生産された食材を用いた料理を取り入れる。また、暦に沿った行事食の提供を行う
- ④ 一人ひとりの嗜好や状態に合わせた食事内容・食形態の提供、介助方法の検討や食事の環境づくりを行う
- ⑤ 感染予防委員会と連携し、食卓、キッチン、冷蔵庫、食材保管場所などの食品、衛生管理を行う
- ⑥ 低栄養や糖尿病、食中毒など食に関わる研修会を実施する

【令和2年度行事食】

月	内 容	月	内 容
4月	春メニュー 花見御膳	10月	十五夜 十三夜 保育園：ハロウィンメニュー
5月	八十八夜 単語の節句 保育園：こどもの日メニュー	11月	文化の日 七五三 勤労感謝の日
6月	初夏メニュー 夏至 運動会メニュー	12月	冬至メニュー クリスマス 大晦日 クリスマス会メニュー
7月	夏メニュー 土用丑の日 元気祭りメニュー	1月	元日 新年会メニュー 小正月 人日の節句
8月	土用丑の日 月遅れ盆	2月	節分 建国記念日 天皇誕生日 デイ：バレンタインデースイーツ
9月	秋メニュー 重陽の節句 敬老の日 秋分の日 敬老会メニュー	3月	早春メニュー 上巳の節句 春分の日 デイ：ホワイトデースイーツ

【令和2年度活動計画】

月	内 容	月	内 容
4月	勉強会(ムース食 嚥下調整食、施設の食事)	10月	握りずし等の実施 コラボ企画実施・報告
5月	勉強会(食中毒予防、ユニットの食品衛生について)	11月	握りずし等の反省 コラボ企画の実施・報告
6月	コラボ企画準備 勉強会(病態栄養)	12月	嗜好調査準備 コラボ企画実施・報告
7月	握りずし計画 準備 コラボ企画の実施・報告	1月	嗜好調査実施 コラボ企画実施・報告
8月	握りずし計画 準備 コラボ企画の実施・報告	2月	嗜好調査まとめ コラボ企画実施・報告
9月	上半期反省 握りずし等の準備 コラボ企画実施 報告	3月	年間目標・活動の反省 新年度目標

□ 地域介護育成チーム

【令和2年度活動目標】

「地域の介護に携わる人材の育成、地域の介護力の向上」

○ 介護実習の受け入れ

- ・ ユニット職員が実習生を指導することで初心に戻り、日々の介護業務の見直しの機会にする
- ・ 実習生と入居者の関りの中で入居者の活性化を図り、実習生のコミュニケーション能力が向上できるよう指導する
- ・ 実習指導マニュアルの活用と内容の周知徹底を行う
- ・ 実習生に「実習後ボランティア活動でまた来たい」「この施設に就職したい」と思ってもらえるような職場環境づくり、実習指導を行う

○ 中学生の職場体験受け入れ

- ・ 入居者体験や実際にユニット職員の動きや入居者の生活の様子を見て「介護」という職業に興味関心を持ってもらう
- ・ 体験後「将来ここで働きたい」という言葉を聞くことができたため、そのように思ってもらえる生徒が一人でも増えるよう取り組みを行っていく

○ 総合学習授業の実施

- ・ 吉岡小学校と連携し、毎年3年生の総合学習の一環として実際に施設へ訪問し高齢者と触れ合う機会をつくる
- ・ 入居者と地域の小学生が関わる機会をつくり、互いに行き来できる馴染みの関係を築いていく

○ 子ども参観日

- ・ 夏休み等の長期休みを利用し、職員の子ども達に親の職場や働く姿を見てもらい仕事内容を聞かせる「子ども参観日」を実施する。
「子ども参観日」を実施することにより、親の仕事への理解と関心を深め、家庭内でのコミュニケーションを向上させること、子供の職業観を育むこと、また、職員間の相互理解を深めることで、ワークライフバランスの推進、働きやすい職場環境づくりに繋げていく

○ ボランティアの育成、受け入れ

- ・ 施設に来てもらうだけでなく、入居者と一緒に地域のボランティア活動にも参加できるよう活動していく
- ・ 施設に興味を持ち続けてもらえよう、広報部門と連携しボランティアの活動状況の周知を行っていく
- ・ 傾聴ボランティアの育成や大和町夏祭りボランティアの参加、施設周辺の定期的なごみ拾い活動を行い、地域に根ざした施設づくりに繋げていく

○ 広報部門との連携

- ・ まほろば情報とブログの更新を定期的に行い、施設の活動内容を地域に広めていく
- ・ 担当を決め、分担しながら情報誌の記事作成、ブログの更新を進めていく
- ・ 写真や原稿を担当職員と打ち合わせしながら、わかりやすく・楽しいまほろば情報を発行していく

○ 訪問販売

- ・ 衣類や日用品等、普段買い物が難しい方でも施設内で買い物ができるよう、地域の商店と連携し、訪問販売を実施していく

【令和2年度年間計画】

	実施事項
4月	・まほろば情報誌 4月号発行
5月	・訪問販売
6月	・施設職員、入居者による地域ボランティア活動
7月	・まほろば情報誌 原稿作成 ・ 施設周辺のごみ拾い
8月	・子ども参観日 ・大和町夏祭りボランティア ・介護体験実習受け入れ ・まほろば情報誌 8月号発行
9月	・吉岡小学校総合学習 ・ 施設周辺のごみ拾い
10月	・こどもの国幼稚園慰問 ・訪問販売 ・施設周辺のごみ拾い ・まほろば情報誌 10月号発行
11月	・中学校職場体験 ・介護体験実習受け入れ
12月	・まほろば情報原稿作成
1月	・まほろば情報誌 1月号発行
2月	・仙台保健福祉専門学校歯科衛生科実習受け入れ
3月	・仙台保健福祉専門学校作業療法科コミュニケーション学習 ・施設周辺のごみ拾い ・まほろば情報原稿作成

□ 喀痰吸引等業務検討委員会

【令和2年度活動計画】

- ・ 事故防止委員会と連携を図り、経管栄養・喀痰吸引に関するヒヤリハット、事故の検証・再発防止策の検討を委員会でも行う
- ・ 吸引が必要な入居者の状況を定期的に確認、リスト作成・更新を行う
- ・ 吸引器等喀痰吸引、経管栄養に必要な器具の確認及び使用方法、保管・点検方法の周知徹底
- ・ 介護福祉士（医療的ケア修了者）の喀痰吸引等実地研修の実施

特別養護老人ホーム まほろばの里向山

令和2年度事業計画

① 入居稼働率特別養護老人ホーム98%、短期入所生活介護85%以上の確保

稼働率達成のため、以下のことを実施し、空床から新規入居までの期間短縮に努めます。地域のニーズの把握・地域包括支援センター等との連携を行い、入居者確保に努めます。

また、居宅介護支援事業所や病院、介護老人保健施設等関係機関との連携を行い、入居者確保がスムーズに行えるようにします。

入居後は健康管理を徹底し、入居者が健康的に過ごせる環境づくりに努め、稼働目標達成を目指します。

② 入居者に対するサービスの質の確保

職員一人ひとりの知識・技術の向上のため、施設内研修や外部研修派遣を積極的に行い、入居者への質の高いサービス提供を目指していきます。

また、各委員会やカンファレンスの機会を活用し多職種連携に力を入れ、様々な専門職の知識、技能を活かしたケアサービスの提供に努めます。

③ 家族との信頼関係の構築

入居者ご家族との日々のコミュニケーションを重要視し、入居者はもちろんのこと、ご家族にとっても安心できる施設サービスの提供を目指します。入居者の日々の様子をご家族に伝え、風通しの良い雰囲気づくり、信頼関係の構築に繋げていきます。

④ 地域に根差した施設づくり

近隣の町内会・民生委員・地域包括支援センター・各サービス事業者と身近な関係作りを構築します。施設の機能を活用し、お互いの交流や情報交換の場となるよう地域に提供します。

⑤ 働きやすい職場づくり

- ・職員が働きやすい雰囲気・環境づくりを行い、不安・悩みを解消し、働きやすい職場づくりに努めていきます。

- ・報連相を徹底し、職員が同じ方向性で仕事に取り組めるような環境づくりを行います。

- ・働く喜びを感じ、共に施設の将来を築き上げられるよう、活気のある職場づくりを目指します。

■ 各委員会 年間計画

□ ユニットリーダー会議

【目標】

相手、自分を否定せず「一步前進」を目標とする

【内容】

- 1 前を向いて物事に向き合う。
- 2 入居者・職員に寄り添い、リーダーである前に1人の人として成長する。
- 3 仕事に根拠を持つ。

□ 事故防止対策委員会（事故防止対策・身体拘束・虐待防止）

【目標】

- 1 事故発生に対する、予見・想定を踏まえた対応策を講じ、ケガや生命に関わる重大事故等の発生を防止する
- 2 身体拘束廃止・虐待防止の観点を持ち、適切なケアを実践することで入居者の暮らしを守る

【内容】

- 1 ヒヤリハット・事故発生時、再発防止策を検討、実施、評価、再検討することで無事故、または事故の最小化を図る
- 2 委員を中心にユニットのラウンドを行い、事故・身体拘束・虐待に繋がる危険性・可能性を確認し、未然に予防策の検討を行う
- 3 介助方法や生活支援のあり方をユニットや委員会を中心に考え、正しいケアの実践が出来るように努める

【年間計画】

	実施計画
4月	
5月	ユニットラウンド
6月	ヒヤリハット・事故報告書について(施設内研修)
7月	
8月	ユニットラウンド
9月	
10月	身体拘束・虐待防止について(施設内研修)
11月	ユニットラウンド
12月	
1月	KYTトレーニングについて(施設内研修)
2月	ユニットラウンド
3月	

□ 苦情解決委員会

【目標】

- 1 入居者や家族、地域の方々とのコミュニケーションを図り、細やかに意見を伺う事により、苦情を未然に防ぐ
- 2 苦情発生時は、家族や入居者、地域の方々の目線に立ち、速やかに適切な対応が行えるよう努める

【内容】

- 1 毎月の委員会の開催以外にも、苦情発生時には臨時委員会を開催し早期の対応検討を行う
- 2 家族・利用者とのコミュニケーションを頻繁に図ると共に、地域の方々との連携の場作る事により、苦情に発展しそうなケースの早期発見に努め、未然に苦情を防げるようにする
- 3 入居者・家族アンケートを年2回（8月・1月）実施し、入居者・家族の意向を取り入れる事でケアの向上に繋げる

□ 防災対策委員会

【目標】

- 1 避難訓練（年2回以上）を行い、安全でスピーディーな避難を行えるよう、知識の向上に努める。
- 2 地域住民と合同訓練を行い、非常災害発生時の連携作りに務める。
- 3 ハザードマップを活用し発生の危険性が考えられる災害についての知識の向上と訓練を行う。

【年間計画】

実施事項		
	実施計画	備考
4月	自主点検(各ユニット電気器具など)	消防計画の点検表使用
5月	普通救命講習会(全職員対象)	太白消防署八木山出張所指導
6月	地震想定避難訓練	宮城県沖地震想定
	通報訓練	緊急連絡網
7月	自主点検(各ユニット電気器具など)	消防計画の点検表使用
8月	土砂災害想定避難訓練	宮城県水害想定
9月	火災避難訓練(夜間想定)	自主訓練
	消防設備点検	消防設備業者委託
10月	自主点検(各ユニット電気器具など)	消防計画の点検表使用
11月	災害備蓄品の点検	委員会時
12月	火災避難訓練(夜間想定)	自主訓練(総合防災訓練)
	通報訓練	緊急連絡網
	防災計画マニュアルの見直し	委員会にて
1月	自主点検(各ユニット電気器具など)	消防計画の点検表使用
2月	建物内避難経路及び消火用具の確認	委員会時
3月	火災避難訓練(夜間想定)	自主訓練(総合防災訓練)
	通報訓練	緊急連絡網
	消防用設備点検(法定総合機器点検)	消防設備業者委託
	年間反省	委員会にて

□ 感染予防対策委員会

【目標】

- 1 感染症の基礎知識の向上を図り、統一した感染予防対策を行う
- 2 感染症発症時、早急、適切な対応を行い、感染症の蔓延防止に努める

【内容】

- 1 年2回の研修会を開催し、知識の向上を図る。
- 2 入居者の状態の確認・把握、手洗い、うがいの励行、換気や環境整備を行い、感染症の発生防止に努める
- 3 感染症発症時は、マニュアルに基づき、統一した対応、蔓延防止、早期改善に努める

□ 給食委員会

【目標】

- 1 美味しそうな盛り付けで適温の食事が提供できる
- 2 ユニットの特性を活かした給食の提供ができる
- 3 行事食の充実に努める

【内容】

- 1 美味しそうな盛り付けで適温の食事が提供できる
 - ①加熱配膳カートを適切に使用した配膳を行う
 - ②献立に合わせた食器の選択・提供、誰でも再現しやすい盛り付け方法を検討する
- 2 ユニットケアの特性を活かした給食提供ができる
 - ①魚を焼くなどの簡単な調理については、定期的にユニットで実施する日を設ける
 - ②米を研ぐ・味噌汁を作るなど、入居者の生活の一部・役割となるよう、声掛けや支援を行う
- 3 行事食の充実に努める
 - ①毎月25日の郷土料理提供
 - ②ユニットでの行事・イベント開催時、行事食の準備・提供等の支援
 - ③年間計画に沿った行事食の提供

月	内 容	月	内 容
4月	お花見弁当	10月	芋煮会
5月	端午の節句	11月	
6月		12月	クリスマスメニュー
7月	七夕	1月	おせち料理
8月	夏祭り	2月	寿司まつり
9月	敬老会	3月	ひな祭り膳

【年間予定】

残食調査 : 毎月の給食委員会にて残食の報告を行う。

嗜好調査 : 7月、2月にアンケート調査を実施する。

□ もっと生活向上委員会（ユニットケア・排泄・口腔・認知症ケア）

【目標】

入居者一人ひとりがその人らしい生活が続けられるよう、より豊かな生活の実現を目指す

【内容】

- 1 排泄ケアに関して、適切な排泄介助の知識・技術の向上に努め、プライバシーに配慮したケアの確認を行っていく
- 2 口腔ケアに関して、口から食べることの大切さを理解し、日々の状態変化の確認を行うことで、口腔機能を維持できるよう支援していく
- 3 ユニットケアに関して、認識しやすい生活環境を整え、住みやすいユニットをつくるよう努める

□ デジタルクリエイション委員会（研修・レクリエーション・広報・ボランティア対応）

【目標】

- 1 季節を感じて頂けるような行事の企画や、心身機能の維持に必要なレクリエーション、地域交流などにより、入居者に楽しみのある生活を提供する。
- 2 「まほろばだより」や「まほろばブログ」を発行し、施設内行事や研修会の様子などを、家族や地域の方々に対して情報発信を行う。
- 3 地域ケア会議の参加、サロン活動・町内会活動の支援を行い、地域に開かれた施設を目指す。また、専門職を地域へ派遣し地域住民のヘルスリテラシーの向上に寄与する。
- 4 ボランティアなどの受け入れを積極的に行い、就労支援や地域の方の活動の場を提供する。地域資源を活用し、入居者の生きがい作り、楽しみを提供する。
- 5 積極的に研修や実習生の受け入れを行い、介護の人材育成を行う。定期的に施設内部の研修を行い、職員の知識・技術の向上に努める。

【内容】

- 1 個別ニーズに合わせた外出支援や季節を感じられるような行事を企画し、生活の楽しみを増やすことで、心身の健康の維持を図れるよう支援する。
家族や地域の方も参加・交流できる行事・イベントを企画・実施する。
- 2 年3回の「まほろばだより」の発行、毎月の「まほろばブログ」の更新により、施設内の活動について、ご家族や地域の方々に広く知って頂くように広報活動を行う。
- 3 地域のサロン活動など憩いの場の提供、健康づくりに関する情報発信、小学校・児童館などとの連携による世代間交流の機会などを提供する。
また、地域包括支援センターや近隣事業所との連携により、フレイル予防や地域の介護力の向上を支援する。
- 4 年間計画に基づき内部研修会を開催し、施設職員の質の底上げを図る。
資格取得支援のバックアップ、新人職員・中途採用職員のフォローアップを図る。

【年間計画】

	実施事項	
	施設内研修Ⅰ	施設内研修Ⅱ
4月	セルフマネジメントに関する研修	新任職員採用時研修
5月	感染予防対策①	普通救命講習
6月	事故防止対策①	接遇・マナーに関する研修
7月	医療に関する基礎知識	ユニットケア・設えに関する研修
8月	苦情処理に関する研修	倫理・法令遵守に関する研修
9月	食事に関する研修	新任職員フォローアップ①
10月	身体拘束・虐待防止	看取り
11月	感染症予防対策②	褥瘡予防・ポジショニング
12月	認知症に関する研修	事例発表
1月	事故防止対策②	介護技術に関する研修
2月	排泄に関する研修	報連相・記録
3月	口腔ケアに関する研修	新任職員フォローアップ②

□ 褥瘡対策委員会

【目標】

- 1 褥瘡に関する基礎知識・予防対策の質の向上を図り、「褥瘡を作らない・早期発見できる」ケアを行う。
- 2 各個人にあった予防対策をユニットで統一して行う。
- 3 褥瘡発生者に対してケアの見直し及び対策を検討し早期治癒へ努める。

【内容】

- 1 皮膚状態の異常が見られた際、多職種間での情報共有・対応策の検討を行っていく。
- 2 栄養状態（体重・食事量・検査データ）の変動等を確認し、状態変化の観察を行う。
- 3 ポジショニングや体位交換の研修会を開催し、知識や技術の向上を図る。
- 4 エアーマットや床ずれ防止マット、L字バー、車椅子等の設置と管理を行う。